水滸傳

上

水雞塚集上巻

俳ふ西東雲りきえし流ふ
西とむくきにみちひく人ゆうしゅ
道をよう終焉まてんや芭蕉庵乃
翁をと角發の要らしより俳諧の
志厚く變化を原ね十二て天命
限ありて湖南に阿を絶つ中興の

師たゝり列星世光をふ掃しゝ
一言天下の範たるを（委い居士の碑に詳なり乃ち宮なる書を）
今や作家の連中墳墓き句と
播方より乞ひ一牒をもとして
神霊の備へ敬て拙筆を振ふ耳

單關火老中日

鳴風館　吟山謹敘

畫像誌

産しを伊賀世を杉尾道世の
風流世芭蕉翁世桃青と称し乾坤
雲水の霊伯して俳諧の風と
なし引齢五十二歳元禄八年十月
十日二日卒しをの表れを面
面ちよ資をうしたをと

頬長くぐつして眉毛大きく眼中
ながくやうに鼻を絶世たる双柱
耳一尺ばかり肩厚き人めいめい痩せたる
形容とやみ今此像伝有宮岳士
佛法ありがたきことを嘆嗟
幾年か経て推う知らぬ人めいん
紀て此集の端よ益圖して遺す而

松榮散人

寄潮描之

多引石碑

水鶏塚ハ東海道佐屋の駅より
南へ切本一町風雅なる佐屋河の
高岸あるうち旧地乃うまへ塚の高八
尺のうち

堤

切新法師うしなと水鶏塚

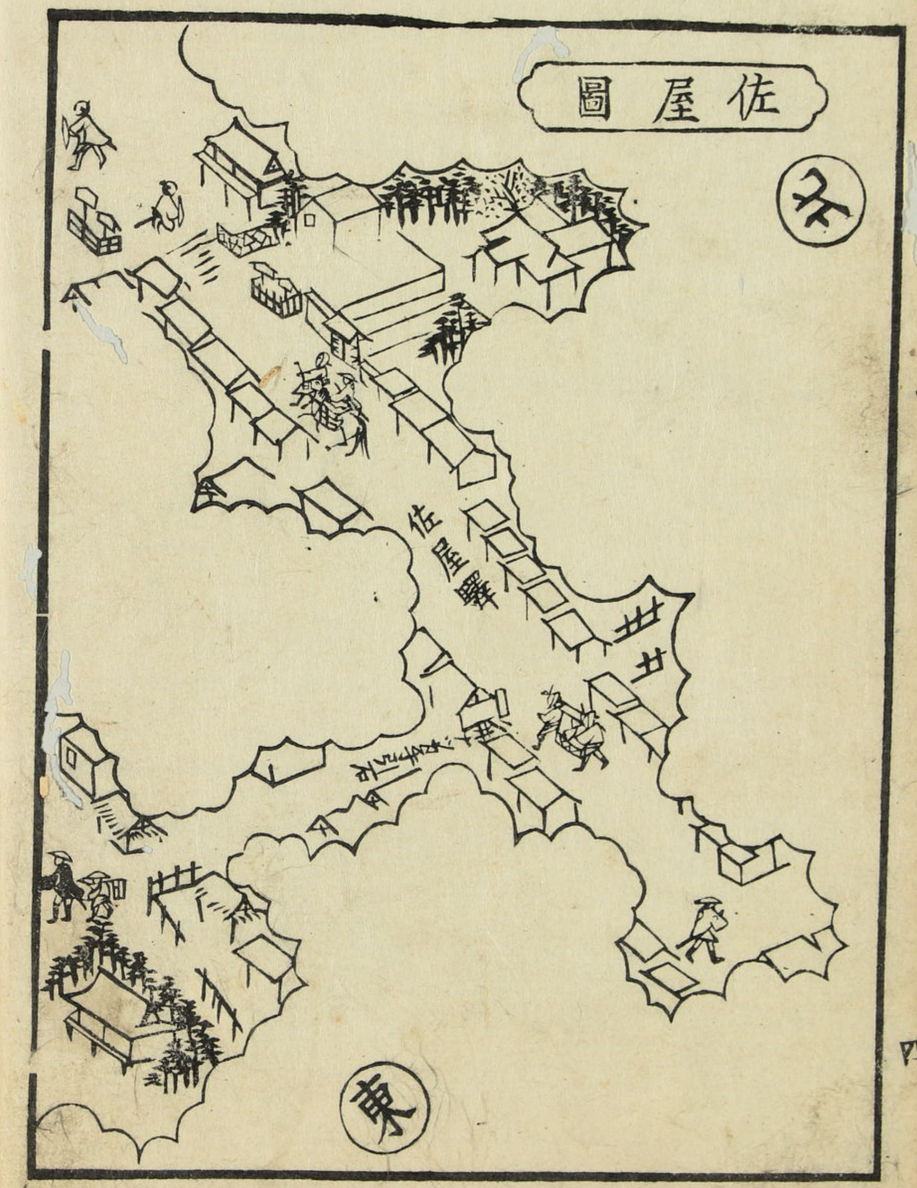
皐を觀　宇林

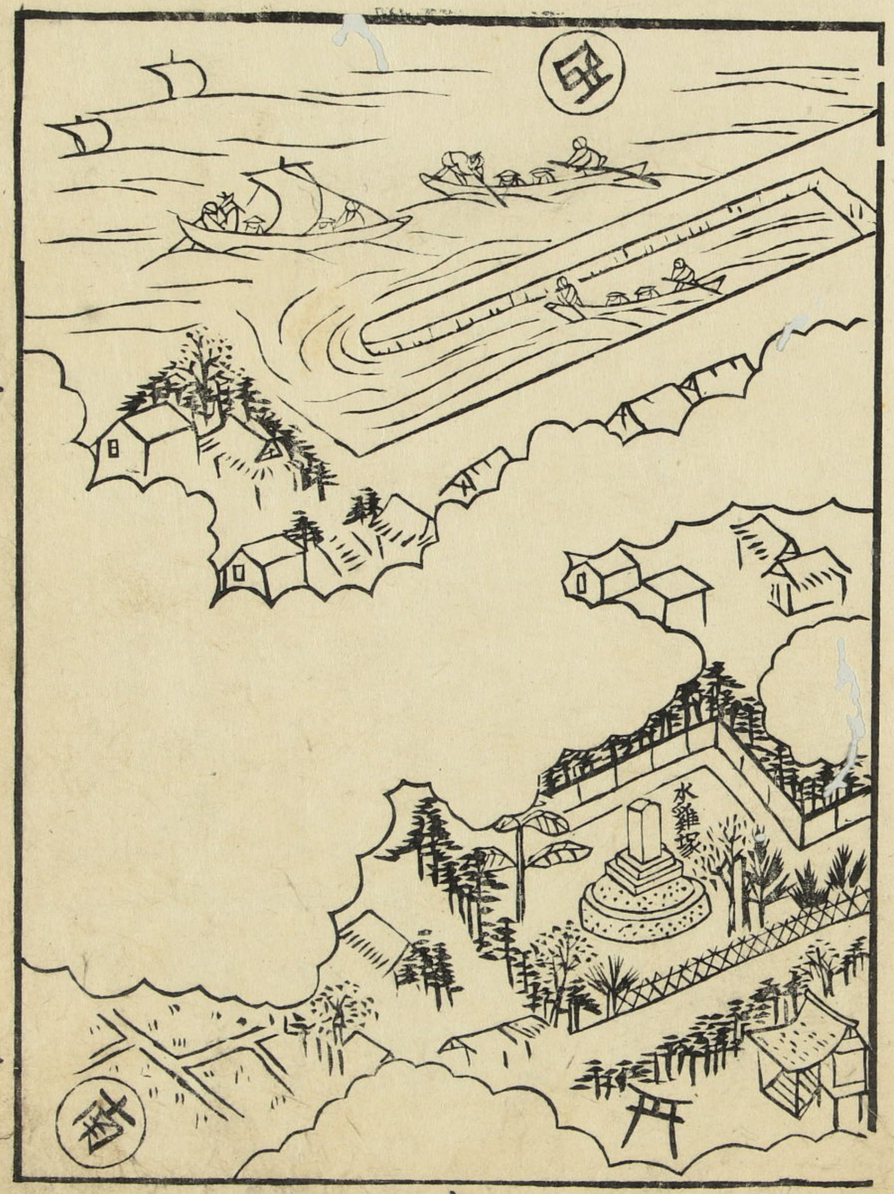
水雞塚圖并序

蒙畫の筆とるかの老こ雨まに
似たれと法師佐屋まうに
由なくとも世に埋る鶏塚とあるて
石碑と拜しうる雨ん日ふ事内
あるまもんしまうて

享保二十乙卯歳六月中日

遊梢連　志宣圖


佐屋圖
佐屋驛
東


水雜塚
西

水雞塚石面

水鶏鳴くやうらの畑

芭蕉翁

石右

芭蕉翁ハ伊賀の出産にして氏は松尾と称し風雅に
事寄せ人を導き一生不仕官の姿にて東西西の国々
移り遊歩し一所に住まず一生三十餘年を猿八の宅に
師匠の仕形と世作全く宮古宮より遠き山田行末の三次より成心うあ
る縁れ一老と称をひろめ山里に世捨士年乃成る
庵の育は仕うら松をとりかこみ竹等を志空助力を
加へ吟山施をとなりて墳を築き碑と建め其の侘成を

石背

銘曰

師や浦曲をとたりの月
師やはまさうの花ちる比
師や海慢邪者よ速へ
師や実ゝ老て虚を拾ふ成

情ゝ情ゝ寄り物に
今宵味噌汁不可語よ変に
変へ変へ世の中自立とたに
歎ゝて世よ風雅に聖ゝに

月空居士露川

石左

享保二十乙卯年五月十二日建焉

夏雪溪氷蟲操筆

任到來備碑前　名護屋

紙潛[illegible]十夜[illegible]水雜塚　無外
廟[illegible]成後[illegible]下元の日　一秀
[illegible]墨[illegible]　林月
濃[illegible]筋乃文字や石[illegible]　吟水
[illegible]の[illegible]と摘[illegible]　梅梢
[illegible]　固培
戒[illegible]　林子

祖師の[illegible]一丈[illegible]　雪賀
[illegible]雪[illegible]　冬栢
[illegible]小[illegible]の梅[illegible]　松徑
[illegible]牡丹　敬栟
初雪[illegible]　之楓
[illegible]雪[illegible]百味[illegible]地の百味　松波
[illegible]川千[illegible]　按之
[illegible]流[illegible]　雨江
[illegible]　推扣

来雨
宥夕
和雪
風六
涓流
滴志
和泉
三和
十又

初汲
池天
宇東
挑國
日一卜
柏後
松圭
暮帆
椿又

陰徒乃かからもてなしえを牡丹　湖青
ふる雨に葉まづりて立や要石　除酉
雪を借るまふけうん拍子の塚に雪の　氷工
麦毋も石碑よ極とかぐらう　歌的
道流と絶うや菊に香くゆ仙花　東唄
ふれて葉一歌のうらや五十年　拾翠
うり雪紙巻ふや赤ふに描人也　古甃
はもの紙塚ちくや水鶏塚　葩香
ぐうう拍子の雪ふ　水明

雪うもこもおのうちやみふに水鶏塚　不敢
ちちちかいまるふ紙いちうの梅　化光
芭蕉忌ふにうやうるとを峠里　獨松
ちふ紙弥ちゆ曲紙ちん墳忌石　砂白
子ふに紙はと紙よちまちれちり　素人
紙写書くもの八つふに白ひの紙　器水
ちもふ紙忌やいざたちさめて栗の皮　三林
乃ひ越しち声に紙ゆ後ちちり　可考
紙式のかざや小春のひもに也　千里

去神仏合せて四十四時雨　卅巴
雨数よ八つ三つ四ツ柘榴花　助次
山茶花の安つて又咲き又ぬれ　春翠
冬枯りの信濃の文とぼるん　葉鳴
冬枯の雲の人や昔の人ちる雲　宵月
川音乃志ぐれや石影経の多ク　麥雨
石て根と絡ゝや此雅ぶれ花　喜睦
時雨降て時雨てあゞ茶五十ま　東玉
水鳥と坂離ゝや伝屋の別ま　鶴扇

去の世の世の世の芽子茶の花ゝ咲よ乃ら　風雀
山茶花乃白ゝや香の流ゝ　女八宵
茶ゝ乃かゝれ世の世の茶屋ゝの文字　山紫
白漣ゝ世の根ハ堅ー土饅頭　坂車
彩墓の世ゝ穂ゝ穂ゝ里ゝ寸　和周
世婦ゝ百礼ゝ乃世ゝ川　波心
代と人も迎ふ車の世柘榴ゝ　岸汐
麦畑乃腿て窠田や名墳　湖寂
彩塚ゝ花の森の光ゝ乃花地の　可中

山茶花白したぐれやそら鶏塚　序幸
捨ぶねや湯でのてらてらと牡丹　女蘭哥
八雲と呼ぶやハツ〻の花の雪　龍水
雪夫人やそよの佛の花ぬさの和　亀秋
子供らの名のやさしきの梅　暁雀
川風や撞木も冴えや法衣　楚分
蜜柑の色捨るゝ枇杷の花　周竹
石肌乃深てやゆ月のかゞり塚　白川
紅葉やちらぬ紅葉　萬吳

ゆるびの紅ぐりや石の初時雨　芝流
茶の湯の雪の朝の雪　左立
ちり雪の献上菊　吉野紙　左林
仏座の花も千年の花ぎつね　錦思
変化せるくの姿や塚乃雪　烏橋
墓石の掃除ちるれ大根引　可欣
血脈ぶるぶる鶏ちりこれ赤ん　當然
ちりの花の声や枝葉のゆ雨降　水月
あるゝ後とぶづんてちるや雪の花　杉呼

瘦て咲くまゝの梅　笠波
霊祠の砂子ちらしや初の遊　遊之
湖南うゝ樹を附て作風の孤洞
亟去未生絵中法と称す俗名　李冠
荘叢乃宿ひやくの夢の心囲
ゑみどりや一樹の梅の塚の風野
言の葉ふる紅ゐ〳〵の笑もの鷗波
行〳〵ふるるや桔梗の作風の三鳥
有宿乃孫あるの作風の義塚　誰也

変化せるよ迷ふ人の世の翠小
ゆ〳〵に苔ぶ〳〵碑の文字　龍▲
世塚り桔梗ぐさの宅　思英
墓よ苔ゆくぞり雪しや学子　風貫
道とゝんゝの石ぬみを作ゐ　午鳥
義出乃高峰よ苔の塚の扇招
附人とまゝ〳〵やゆ苔の業　又介
名安出る数や桔梗れ苔香　鱗長
末世ゝる世やゝ月の義ぐり　漱流

[illegible]　習羽
[illegible]　耳了
[illegible]　蜻蛉
[illegible]　光水
[illegible]　白阿
[illegible]　竹爲
[illegible]　右栫
[illegible]　推角
[illegible]　柳波
[illegible]　氷蟲

十月廿十や風雅忘堅少く横　氷蟲

舊翁泉下より海一て四十余年ゝ[illegible]の導師月空居士弟とゝ[illegible]て西風より利すゝ弟
越前[illegible]一枕とゝ[illegible]て近里の好士狂語の巧客笠[illegible]能
[illegible]と拵きて此墳より再拜せさゝんや

[illegible]も老[illegible]仏[illegible]　馬州
碑の彫成諸方ゝ[illegible]波よりく[illegible]　汪冲
雪ゝ冩くゝるや貴[illegible]の行ら　櫻川
[illegible]ゝ[illegible]や[illegible]て[illegible]牡丹　不又

師の恋紙掛りくぜるもやせる子　悠醉
根と配るいけまでせまれ冬ぶれ　三口
唐ものもとるて深の小春哉　不及
遠巻やホの紫信もりしい春　雅雲
西道り新色いきりしみ春立　林鳳
欲袋数とのゞ変ゝ小春　寸青
ゝれゞゝ拾遺のゝ及れ一世ゝ　藤乃

勢州四日市

世よ管くあるやゝるれ二月浮　丁濤
ゝ月雪やゝ桃猶の祖師供養　鳴之
元越れ雪りゝやゝ牡丹　回月
佛ゝ雪ゝや梅乃風雅縁　杉高
今ゝ月て香やい原見水仙花　周行
月雪れ人ゝ生紙かざ彩や雪ゝ見　一川
世祝ゝれり見ゝ拾遺ゝるれ　里川
我身西浜の真砂乃打ゝ梅　左林

陰徳の積つもりて富士松　銀觜
世の為めとて今世々栄ゆる　哭哭
ちゝ時乃花は散りこのちゝ木の葉　和勃
千年は花も木の葉を友塚　都笠
葉の茂乃こんやほむらとむらし　何十

尾州刈安賀

冬ゝ積深ふかなるぞや我世とう　八雷
ちゝ下へちりしてゐ葉やゐ代八千代　天舌
其徳乃根ぢしやゝ代ゝ世ゝ人ゝ　桃也

木の葉ちりて嵐やゆゝ力へ投配ま　東虹
世ゝ世ゝとゝ魄や拍ま乃一つ塚　兎耳
古塚は拍ま乃拍ま乃ぶ　万化
夕鳥乃ねゐ世の人と附ゐ　可卜

木曾福島

弱豆の藤加城ようは塚ふつて　秀陽
ちゝ世ゝ木の実拍ま乃新塚　湖辰
風ちり笑つゝ世ゝ塚のゑ　和流

推敲を時川門田の面たり　盤谷
法界寺本堂の前乃ち翁塚　東吟
菜のそれ乃白しぐるりや翁塚　吾妻
口切乃茶湯や伏見の白山　東陽
杉風の志ぐべや塚の枇杷の花　蜘柳
ぐるりより塚や柘植の中の乃　素扇
今文字の丸むるりや雪の墓下　山虎
木の葉は埋きるや水鶏塚　洞泉
口切の初尾ゆ〇ぶや蓼のまへ　文水

水鶏塚ふるさとの塚よりぐさえん　孤雲
ふるさとを約ぐぞと墓の初ふる　巴香
嘗乃子ぶもくぐるを塚ふる　楚雀
玉味噌ふるの山納豆汁　宮之腰　松陽
冬川の子のたむをや水鶏塚　可隨
筍を降ふ伊吹の雪や翁墳　不及
焼香乃煙も塚の小雲う郎　里雀
祥月よ時やるを入るの牡丹　梅水
五十年ふるさとの雪塚の雪　南也

[illegible]て築く塚よ塔も雪見花ぞ　奈良井　坡水
水鶏啼く古墳やみみ塔よ鳴る　藪原　來水
線香より細く淋しき塚のもと　未考
[illegible]菊北堂久しきもとづみの塔　東雲
[illegible]上の法[illegible]にきうり蔬　一湖
石ばしらふ筆[illegible]れ　壺珀

木曾贄川

[illegible]の村を小[illegible]くりや水鶏塚　加流

[illegible]白しきみ雪佛　雅川
[illegible]乃[illegible]やいづ[illegible]牡丹　棟宇
[illegible]雪や凡庭佛　五梅
おりげや[illegible]の拍拍　女　加紅
八[illegible]やハつ[illegible]の脉　古町
[illegible]やみ[illegible]　梅詞
[illegible]や凝つて初夏　里夕
[illegible]本[illegible]や水鶏塚　嘉竹
[illegible]墓の[illegible]　富雪

世をそしるものやそれとあれども鶏塚　栁雨
眼前にふるゝそれ夜の五十年　羽町

東美濃

伝屋よ舟く稚や拾ひ乃ぞ松　釜戸　松軒
一附面ちるやそ天ぬ所　三行
我ぐるとそ稿梅や塚去鶏　小沢洞　里林
梅やゝ穂と木の葉ぬ千ち　細淋　梅誌
芭蕉忌ぬ風雖れ汁や塩海史　湖文

水ちぬりゝひねとう舟の下　日吉　寸志
初雪ぬ木のぬふ蕊ちや塚ふ　柯栢
口切ぬりや鶏塚　東雀
梅まを伝屋よ拾ぬ音ち　女　栁枝
墓乃麓拾へ十月中こり　南枝
ち鶏鳴しぬうやそれの粉幸鶏　歩山
水鼻ぬうもれ石碑のりぬ光ち　深沢　仙龍
鳴うぬ野や水鶏を宇屋と　月吉　和水
天とのあめく鶏ハ鳴りゝ櫂ぬ音　墨俣　風白

濁りに染まぬ蓮やゆかしき　橋田　鷗澤

越中

昔蕉翁越路ゆきの句とたづねてくみ給ひし所

枯もとゝさきつるまでかな　今石動　吏酉

紀生の親よ鶯や鶯　鳩候

舊り法くん家に新の雪　如角

口さがりや強ふるまでもなし　鼓石

雲の鳥的やわるまでの玉梅　明矩

枯ものゝ[イツテ]ゆくまでの我門田　交琴

本奥やくゝ雪の雀まで　桃鯉

雲てくるくる行をつゝまれる文の月　加州津幡　枝紅

さゝ波やゆゝ湖水を回し佐久治　里楓

越後高田

まぶりやくゝ鶏屋浦の冬牡丹　卷耳

言乃葉ゆり風をきゝ蘭塚　蘭風

朱の実もつゞく今世に附ふ　春州

まゝ孫うゆまぶ色や塚の枯もも　中合

みとせふる海とくぜとくあれたり　千舟
まつ雪れ掃除あつ水鶏塚　仙枝
十月れ多鶏うつへ掃きたれ　荒介
雪の雷鳴や小春ふる鶏はの　富酉
金ふるこ雪れたつ水鶏塚　居林
鶏も来れ流るみよりれや川ふる　梅至
云の雪とえ字れ雪や後塚　瀧戸
十月より五りど金うやうる鶏塚　八之
水鶏時をとや世れ小春月　文園

入雪ふるも時面い河面うの　花北
ふり雪や到源を塚の俺住居　雅伏

住居りし水鶏塚後築ふる霊とふれ

拓亀りし家ふや拓雪れ古し　竹司
蛇蜂もふれや小春の経陀羅尼　万路
小春毎ふる雪や拓雪れ露の声　園生
おりけと拓雪ふるや梅ひど　魚陽
附面きやこうてもぬむ　桐夭
末世と小春日和と伝へ計事　千歌

陸奥

其佐和五十二類をあれ共塚　楽浙　馬耳
たゝ紙白し一面風の色あれた　乙白
寒く冬南や紫麻今をあれしゆ白花　等舟
山志ゝれ浪ゝ雪ゝ塚の主人　嘉岑
巍ゝと鳴ゝ雨や法華のあれ跡　布川
ゝ川ゝ雪ゝ仏堂や浪世界　野渡
遠福乃揚白にゝ人ゝあれゝ　志香
雪ゝ雪ゝ笠ゝ像ゝ雪ゝれ　泉石

仏野の石碑乃苔や法ゝ浪ゝ　湖狩
山ゝ雪ゝ波ゝ波ゝ微ゝ笑ゝ塚の雪ゝ　衣吹
いゝの世ゝ業ゝ法の為かゝ見ゝ花　故尤
仏ゝ波ゝ法ゝ雪ゝ雪ゝ白ゝ経　不城

出羽

業の雪ゝ雪ゝ雪ゝ雪ゝ仏堂の風流　未澤　觀山
面ゝ雪ゝ雪ゝ芭蕉や拾ゝ石白し　柳舟
堅竜と反竜香ゝ雪ゝ乃雪　柳蟻

[illegible]　丹流

江州大津

壺の石碑[illegible]陸奥の邦君[illegible]
[illegible]居士[illegible]碑[illegible]何[illegible]建る所也

墨[illegible]文字[illegible]碑[illegible]杉[illegible]碑の綿　松琵

[illegible]筆の跡　文素

[illegible]水鶏[illegible]筆百[illegible]　可明

[illegible]草津　心遊

[illegible]流[illegible]水[illegible]　晋之

[illegible]葦乃[illegible]邦　呉竹

常陸　下總

古翁の手[illegible]故[illegible]
[illegible]
水鶏塚乃[illegible]百八十里と
[illegible]

水鶏[illegible]十[illegible]　人麿

[illegible]水鶏[illegible]乃[illegible]講　宰トー

拾翠亭もとより実ゆたかなる成道に　松九
維摩會ふかく佛子をそなへられ　白扇
風通文乃大わらはやまゆらに紅葉　羊角
陰うつくしき神やしめのうち鶏塚　紫滴
炭竈とかすみや香ゆゑ成むすび　梅仙
拾尾寺又魂香ぬしのうちより　柳泉
業のうれを七人ちゆゆうりうら　雪川
今ゆゑに移ふ浄土の小寺こうふ　葵州
此信考ふらんとの子孫小寺うれ　以交

此塚ぬ為や一天より浄ぬ月　不木
燒香ゆゑ塚や八つ子孫ぬ業　竹友
日千句ぬ哀らべぬ子ゆゑうぬ　柳和
三拜ぬ歳ぬ涙ぬ問ゆゑよりら　吐雲
西風乃冨ゆ紙ゆゑ牡丹　揮旭
冬ゆゑの梅や年ゆゑよりゆゑ　旭映
拾捨ぬ咲くゆゑ梅や成年忌　素耕
ゆゑうゆゑ冬ゆゑ大根　一口
拾ぬ成ぬ所ぬとゆゑ白きり　爲舟

西風に行給やゆかりの苔く哀成　馬風
夜雨紙しては切り乃こ葉の湯ゝれ　江戸千之
小云月をとゝ此塚に名をとゝ給へ　弄花
夕白に白に赤の短冊や哭ゝ乃こ葉　以文
元禄に元禄にもしをやこゝの花　楓雫

伊賀上野

此塚ハ芭蕉翁の俳文連中の合爪

水鶏塚実ハ蛙に成りて変化　其水
西風に行方知やくゝ西なはしの　紫垣
丈十年間こゝに作庵に水鶏成　蘭水
作くゝ涼風ふるしゝの鶏塚　桂舟
老の声に不奥よ聞とくゝれつゝ　嵐子
水鶏啼くく涼と笠に白しゝ雨　洞秋
くゝ雨に松繚こゝ白しゝ水鶏塚　秋色
こゝ雨ゝよひゝ雨ゝ作庵に水鶏成　虚操
何子里ハ白雲ゝや水雛墳　不及
十方ゝ白ゝ丸ゝくゝれゝふ尼　梢風
いが霊に不カリ塚こゝゝや水鶏塚　富山

風流のあるじや宮ゝ川の鶯　夏水
一聯出ふるやゆたかに水鶯塚　成花
年ふるゝ峠ゝぬまの苔ゝ鶯塚　袖浦
石碑ふれ苔ゝとまるや水鶯塚　孤帆
まゝごとれぬるたきやくゝめる塚　之乎
紙鳶出雲猪ゝ鶯おぢゑ苔ゝ　今周
此塚乃神ゝたくゝ鶯ゝれ　窓夕
神ゝ梅紙ふゝたゝゝ水雛塚　雪集
峠泥ふれ池やゝ鶯ゝ鶯法師　如斯

流ゝ鶯ゝ沼ゝぐゝや小鶯塚　鈴十
早苗積ふ松西白やゝ鶯ゝ　芦鶴
猫子ふれゝ庫ゝやゝ鶯塚　桑水
迫出膳ゝ彩ふゝ水雛塚　岡邑
誕生ゝ紙ゝ雲やふゝれゝ鶯塚　琴子
ゝ筆とゝくやゝ鶯のひゝ今　歡包
水鶯塚出ゝ白やゝ梅井戸　青叔
乳のゝ子ゝゝてゝ水鶯ゝれ　女松邑
信ゝ切塚ゝ鶯塚　梅人丸

五老ヶ岳ヶ丘　終南
水は湖の内より出るとくみる塚　撥葉
川舟此所にて　釣江
船と別ふ門前多し　水鶏塚　女扇尺

勢州桑名

弼国寺に義満門つるや小六月　杉夫
ちるの戸よりみる鶏此所にあり舟而　指三
月とすむ宮の臺戸に水鶏うれ　文二

建石よみがえりけてやあるる　左丸
ゑ鶏よりはのあ仰や後千鳥　山田　柳巴
碑よ移さとあるふの宮に義母うし　亀山　白鯉
麦蒔や出雲此所にあるる　京　康信

遠州川水久保

九万里と答く附あやゑ鶏塚　斜川
水鶏塚筑紫くりや伝屋に初附而　其有
ゑむ寺此所にて仏ゑ沖望月　洞巴

尾州津島

高き名は昔と今ふ雪ながら　而立
名は振りて清ちうるやの鶴塚　兎足
ふるあしの名ちなれば　万山
栗はうく神や送りの鶴塚　木巵

佐屋　西保

新しめあるる残なり冬の梅　宇林
我ゆりをいりやしをれ　輕加
ながらの社の書門水逆人　一珍
国孫乃駅をゆふぐ名　寄潮
名葉おて世と思ふや六月　少女　梢吟
渭と下の新土地や格別名仙花　里杉
花を清めの梅保きをの初時間　以男　三菊
貴神とうるの皮肉や冬乃梅　此押

雀後の赤うくちうるおひ　辨慮
時塚やハつるのなれ友だち　巨燈
春ちかやそも塚れ猶ほ伏タ間雨　周甫
秋垣と小稍や森の枇杷乃花　圓之
未ちぐれまちや小春ばをいりに　其月
綿帽子と見せまほしん宮の塚　左押女
時しりれ有て冴くやあの花　志宣
菊酒乃塚や紅葉れ安くじめ　ゆ下西保　我鳥心
ちと菊の咲やゆ秋れ一かまへ　卜之

ちり雪れふる頃とも〻〻雀　梅應
西風れ打ちくべて冴ゆ面うの　槐技
ちぐれ乃塚やくびるふ紅師の梅　宗水
志ぐれやそ石とさうれるの業　魯推
友千鳥とりに抱ほと水鶏塚　佐屋吟山